

2013年7月28日 マタイ 6:19-23「天に富を積みなさい」

あなたがたは地上に富を積んではならない。これはどういうことでしょうか。地上でお金儲けをしてはいけないということでしょうか。

何年前に知り合いの牧師からこんなことを教えてもらった。証券会社のセールスマンが、株を買わないかとセールスしてきたという。なんでも、他の教派の牧師さんがそういう運用をしているそうで、先生もやらないかと。必要ないと断っているのに、わりとしつこく電話してきては「この間私が推薦した株が、ほら、これくらい上がったんです」とアピールしてきて、ほとほと困った、と。まあこういう話を聞くと、皆さんの中にも色んな反応があると思うんですね。他教派とはいえ牧師がそんなことに手を出すのはけしからんと、お怒りになる方もいらっしゃるかもしれない。それこそ、地上に富を積む行いではないか、と。

私自身は、株の運用ですとか、そういうリスクの高いことは避けた方がいいと思いますが、ただ、だからといって、お金を儲けようとする営みを全否定するのは、どうかな？と思っています。キリストを信じる者だってお金を儲けるために、賢く貯金するために、あれこれ知恵を凝らして努力することを敬遠する必要はありません。お金なんてなくても何とかなると信じて、自分の生活に無頓着に生きるというのも一つの信仰の形だと思います。でも、その反対に、お金をなんとか上手に使おう、賢く蓄え、増やしていこうと考えるのが、これは不信仰なのかといえば、そうではありません。この地上世界では、お金を上手に用いなければ、イエス様から与えられたこの命を維持していくこともできません。イエス様の御心を実現するための様々な教会の取り組みも、お金がなければできません。こんな話を聞いたことがありますか？マザー・テレサが、何かの記念に高級車を贈呈したそうです。そうしましたら、マザー・テレサというのはイタズラ心たっぷりな人でしたから、その車をオークションにかけて売ってしまうんですね。そして、そのお金で、自分の慈善活動を充実させたと言われます。教皇にもらった車を売りとばすなんて、大胆で見事な、お金儲けのアイデアです。大事なものは、それをどう使うかです。

あなたがたは地上に富を積んではならない。これは、お金のことなど考えてはならない、不信仰だということではありません。大事なことは、地上に富を積むということが、最終目標になってはいけないということだと、私は考えます。それは、あくまで手段であって、ゴールにしてはいけないのです。

地上に富を積むと訳されていますが、「富」と訳されている言葉はちょっと面白い言葉で、用例を調べていくと「倉（マタイ 12：35）」とか「宝箱(2:11)」。ですから、ここは私なりに訳すと、「あなたたちは、地上の倉にたくわえるのはやめなさい」となる。お金や財産をたくわえること自体が否定されているのではなくて、それを地上の倉にたくわえるのはやめなさいと言われている。地上の倉にたくわえても、虫が食ったり錆びついたり盗まれたりする。

虫が食うというのは、衣服のことがイメージされているのでしょう。古代社会では服は高級品でしたから。さびつく、これは元々「食い尽くす」という意味の言葉ですから、おそらくは穀物などの食料品が虫や小動物に食い荒らされることなどがイメージされているのだと思いま

す。もちろん鉄器などがさびていくことも。そして盗み出される、金銀宝石、財産の数々・・・。
地上の倉にたくわえていても、そのようにして、空しく消えてなくなってしまう。ここでイエス様が表現なさりたいのは、そのような空しさ、はかなさです。箴言 23:4, 5 の教えが背景にあると思われます「富を得ようとして労するな。分別をもって、やめておくがよい。目を逸らすや否や、富は消え去る。鷲のように翼を生やして、天に飛び去る。」

地上の倉にたくわえていても、すべてはむなしく消え去ってしまう。これはまた、死ぬときには何も持って行くことはできないという教えとも響きあっています。コヘレト 5:14、詩編 49:17, 18、I テモ 6:7「なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです。6:8 食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。」そしてここでは、そういう教えからの展開として、金持ちになろうとすることに伴う霊的危険が教えられていますね。「6:9 金持ちになろうとする者は、誘惑、畏、無分別で有害なさまざまの欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。6:10 金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまのひどい苦しみに突き刺された者もいます。」私たちは財産を適切に蓄えたり、増やすことは決して否定されることはありませんが、でもお金にはやはり魔力があって、私たちの魂を悪しき方向へ導いてしまっ、信仰の道から迷いさせてしまう危険があることをよくよく注意すべきです。だからやっぱり、地上の倉にたくわえるのはやめなさい、なのです。それは空しいだけでなく、大きな誘惑になるからです。

その代わりに、天に富をつみなさい。永遠に変わる事のない天の倉にたくわえなさい、そこにたくわえられたものなら、空しく消え去ることもない、あなたを危険な道に招くこともない。あなたの財産を、天の倉のほうに、せっせとたくわえるのですよと言われます。

難しいことは何もない、単純な教えです。とはいえ、じゃあ具体的にどうしたらいいのかと調べてあれこれ調べておりましたら、こんな言葉がありました。旧約続編 シラ書 29:10-13 兄弟や友人のために金を使え。金を石の下に隠してさび付かせ無駄にするな。

いと高き方の掟にしたがって、富を積み。それは黄金よりもはるかにお前のためになる。

施しをお前の倉に蓄えておけ。それはお前をあらゆる災難から救ってくれる。

頑丈な盾や丈夫な槍以上に、施しはお前が敵と戦うときの武器となる。

これは、聖書 66 巻には数えられていませんので、神の言葉として公的に認められてはいませんが、雑な言い方をすれば半分聖書というような扱いで、古来教会でも大切にされてきたものです。旧約と新約の間の時代の思想について教えてくれる貴重な資料でもあります。おそらく、イエス様の今日の教えの背景にも、こういう智慧の言葉があったと思われます。言われていることは「兄弟や友人のために金を使え」それから「施しをお前の倉にたくわえておけ」、それが神様の掟に従って富を積むということだ。つまり、要するに、施しをきなさいということです。ちょうどマザー・テレサが車を売ったお金で慈善事業をしたように、お金をかせいで、積極的に施しなさい、それこそ天の倉にたくわえるということだ。

こういう教えは聖書の思想ともよくマッチしている。社会的弱者に積極的に施しをきなさいというのは、聖書のいたるところにある教えですし、例えばエフェソ 4:28 なんか見ますと、自分の手でしっかり稼いで、それを自分のためじゃなくて困っている人に分け与えなさい、その

ために働きなさいという教えもある。そして、そういう施しの愛の業が、神様の前で一つ一つちゃんとカウントされていて、神様からほめていただけるんだよというのも、色んなところに書かれている。箴言 19:17 なんかに「弱者を憐れむ人は主に貸す人、その行いは必ず報いられる」などという面白い表現もある。そうやって総合的に考えていくと、確かに天の倉にたくわえるというのは、財産を賢く増やしては、それを弱者に対する施しなどの愛の業のような、神様の御心にかなうことに積極的に用いていくということであると言えそう。

今日の礼拝後には、日曜学校の子どもたちがこひつじ喫茶を開店してくれますが、やろうとしているのはそういうことです。この喫茶自体が、ご高齢の方々に対する子どもたちの奉仕という意味合いを持っていますが、これによって子どもたちはがんばって売り上げをあげようとしています。ひとつ 50 円ですが、全部でチケットは 100 枚くらいあると思いますので、全部売れたら 5000 円です。これを貧しい国の子どもたちのために募金しようとしています。10 円あれば給食が食べれるという世界ですから、5000 円送れば 500 人分の給食になるのです。そのような愛の業を主はきっと喜んでくださることでしょう。主が喜んでくださることを、自分の喜びとしていく、イエス様のように神を愛し人を愛するという心を育ててほしいと願っています。そして、このような愛の業によって、天の倉にどんどん貯金してほしいと思うのです。天の倉に財産をたくわえることができた喜んでいいのです。

間違えて欲しくないとは何度も繰り返し申しておりますが、私たちの積み重ねるよい行いが救いにつながるわけではありません。でも主からの報いは期待していい。主からほめられることを期待していい。よい行い、愛の業というのは、十字架の血によって救われた私たちが、その感謝の応答としてなすものです。私たちは罪赦されたらそれで終わりじゃないですよ、それはまだスタート地点に立っただけです。そこから、今度は神を喜び、神に喜ばれながら生きていく、新しい道が始まるのです。永遠の命に通じていく道です。その道の途中で、私たちが積み重ねた神への献身を、愛の業を、神はひとつひとつ丁寧に目を留めてくださって、ゴールにたどりついた時にくしゃくしゃにほめてやろうと、待っていてくださるのです。そういう報いを私たちは期待していいのです。そしてそれが、天にたくわえられていく私の宝。やがて必ず、わたしに大きな喜びをもたらしてくれる、わたしの天のたくわえです。

主からほめていただく終わりの時の喜びを、もっと思い巡らしましょう。カルヴァン先生も「来るべき生」の瞑想ということをととても大事にしましたけども、永遠の時を仰ぎ見て生きることは、今を生きるための根源的な力になるのです。

こうやって話していくと、もう皆さんもお気づきと思いますが、実は先週と同じことの繰り返しをしています。イエス様は、語り口は違いますが、基本的にいつも同じことを言っておられます。それは私たちのダメさをよく知っておられるからでしょうね。何度も言っていたかないと、すぐに忘れるからです。

思えば、山上の説教のはじめから、イエス様が教えて下さることはずっと同じです。心の貧しい者は幸いだ、天の国はその人たちのものである。心まで貧しいと、霊において打ち砕かれている人、本当になにももっていない人、そういう人こそ喜んでいいのだよ、神様はそういうあなたのところに訪れてくださり、あなたを天の国に引き上げてくださると言って下さいました。迫害される者は幸いだ、喜びなさい、大いに喜びなさい、天には大きな報いがあると教

えてくださいました。すべて、天にあるごほうびへと目を向けさせてくださるものです。

私たちは残念ながら、ちゃんとイエス様が指し示すほうに目を向けずに、いつも自分を責めるほうに、自分の内側にばかり目を向けてしまいます。打ち砕かれた信仰者にならなくては、迫害されるようなクリスチャンにならなくては、人の目を気にしないで天の報いだけを見なくては・・・今日の教えでいえば、お金儲けに心を奪われないようにしなくては、もっと施しに積極的にならなくては・・・どうも私たちは、いつもそういう強迫観念をもって山上の説教を受け取りがちです。でもそれは先入観です。

イエス様は、そんな風に私たちが自分で自分をいじめることを望んでおられるわけじゃありません。そうじゃなくて、ただ私たちの心を、高く引き上げようとしていてくださるだけなのです。この地上で誇るべき何者も持っていないくても、そんなことは関係ないじゃないか。この地上でどれだけ迫害されていようが、つばを吐かれようが、関係ないではないか。天に用意されているごほうびを、天にたくわえられたあなたの宝を、あなたの永遠の希望としてもっていなさい。しっかり抱きしめていなさい。その、上にある希望を見上げて、心を晴れやかに過ごしなさい、それがイエス様のメッセージです。

今日のところでも同じです。私たちは、地上の人生を生きていこうとする限り、どうしてもお金がいりますから、地上の倉のたくわえに一喜一憂するのは仕方ないのです。でも、あなたの心は、そこに縛り付けられているべきではないとイエス様は言われます。武道の言葉で「居着く」というのがあります。恐怖や緊張のあまり足の裏が地面に張り付いて身動きならない状態です。居ついてしまったら、もう負けです。今日の教えでも同じです。地上の倉のたくわえのことで一喜一憂するのは仕方ない、でも心がそこに居着いてしまったのなら、もう負けです。

あなたの心はどこにある？とイエス様は問うておられるのです。今日の記事の最後の言葉「あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ」。地上の倉に居着いてしまって、あなたの心は窮屈に、やせほそってははいないか。むしろあなたの心は、天に向かって高く広く解き放たれるべきだ、そうイエス様は言われるのです。

わたしはあなたのために死んでよみがえったのだ。あなたはもう永遠の滅びから救われて、新しい命に生き始めている。永遠の命に通じる、イエスの道を歩み始めている。やがて終わりの時、あなたは完全な慰めに至ることをわたしは約束する。そしてその時、この地上にあって、あなたがわたしにならって行ったたくさんの善い業は、天の倉にたくわえられた宝として、まばゆいばかりの光をはなつて、あなたにとっての永遠の喜びとなる。イエス様は、この遥かな喜びへと私たちの心を引き上げようとしていてくださいます。私たちの心は、そこにこそあるべきです。その光という光が集まる、永遠の希望の喜びの中に、私たちの心はあるはずです。